

ねん にち
2020年6月6日

みやぎしんがくせい おだ しんがくせいじよさいじよかいしき
宮崎神学生・小田神学生助祭叙階式
きくち いさおだい しきょう せつきょう
菊地功大司教 ミサ説教

ことし とうきょうきょうく じよさい れきし のこ じょうきょう か おこな
今年の東京 教区助祭叙階式は、歴史に残るような状況下で行うことになっ
てしまいました。新型コロナウィルスの感染が広がり緊急事態宣言まで発令
されたり、様々な活動の自粛が呼びかけられています。教会も灰の水曜日以降、
公開のミサを中止する措置をとらざるを得なくなりました。この数日は、暗闇
の中にもやっと出口の光が見えるようになってきたと感じますが、まだまだ
完全に終息したわけではなく、慎重な行動が必要です。そのようなわけで、
今日の助祭叙階式も、本来は小教区の共同体の方々と喜びを共にしながら行
うところ、非公開で行っています。

とうしょ かる か ぜ い かんせんけいろ さだ
当初は軽い風邪のようだと言われていたものの、感染経路が定かではないこと
や治療法が確立されていないため、わたしたちは暗闇の中に光を持たないま
ま放り出されたような気分になっています。先行きに希望が持てず不安が増す
ときに、守りに入るわたしたちの心は利己的になり、社会全体に殺伐とした
雰囲気 が漂い始めます。

よろこ がた うち がた よろこ み
「わたしの喜びがあなた方の内にあり、あなた方の喜びが満たされるため
である」と福音に記されています。

しんこう くらやみ なか かがや ひとすじ ひかり ふあん さ
わたしたちの信仰は、暗闇の中に輝く一筋の光のように、不安をぬぐい去り、
生きる希望を生み出すものです。信仰は希望そのものです。そして将来に対
する確固たる希望が生まれるとき、そこには喜びが生まれます。わたしたち
が心の壁を築いて利己的になり、自分の内にこもるとき、暗闇が支配し、希望
は生まれず、喜びもありません。

で み むす み のこ えら よ
「出かけていって実を結び、その実が残るように」と選ばれて呼ばれているわ
たしたち奉仕者は、暗闇に勇気を持って踏み出し、人との交わりの中で心の壁
を打ち砕き、光を輝かせて希望を生み出し、多くの人の心に喜びを分かち合
いたいと思います。

ひかり うしな きぼう う よろこ き さ くらやみ し はい しゃかい
光が失われ、希望が失せ、喜びが消え去るとき、暗闇が支配する社会にあっ
て、人間のいのちは危機に直面します。時に殺伐とした言葉の投げ合いが、
いのちを奪うこともあります。助けを必要としている人が、忘れ去られ、排除
されてしまいます。神からの賜物であるいのちが、感染症のためではなく、分断
されたきずなのために、危機に直面しています。

とも じ ぶん いのち す い じょう おお あい かた
「友のために自分の命を捨てること、これ以上に大きな愛はない」と語るイ
エスは、十字架での死をもって、それをあかししました。教会で奉仕するよ
うに呼ばれたわたしたちは、その十字架の愛のあかしに倣って生きることが求
められています。疑心暗鬼の中で彷徨う世界のただ中であって、心に築かれ
た守りの壁を打ち砕き、助けを必要としている人たちに目を向け、常に希望の
光を掲げる気概を持つ奉仕者を目指して、助祭の務めを果たしてください。